

モスクワ「ムゼイ」巡り・その5

## イギリス商館 Музей старый английский двор 大矢 温

前回ご紹介したロマノフ一族の館の並びに白塗りの古い石造建築がある。これが今回ご紹介するイギリス商館博物館だ。長いこと閉鎖されていたが、2016年1月に博物館として新装オープンした。イヴァン雷帝時代の中世ロシアが唯一、公式な外交関係を持っていたイギリスの出先機関が置かれていた建物だ。もともとは1556年にイヴァン雷帝がロンドンにあった「モスクワ会社」に下賜したものだが、イギリス政府の出先機関の役目も兼務していた。ヨーロッパに開いた小さな窓、という意味で江戸時代の長崎の出島にあったオランダ商館のようなものかもしれない。少し時代が下って17世紀末のピョートル大帝の時代にはここで西欧数学を学ぶ教室が開かれたりもした。

もともとの正式な玄関は外階段を上がって2階から入るようになっているのだが、現在、博物館の一般見学者は1階の入り口から入る。建物の地下室、倉庫に相当する部分から見学が始まるわけだ。ここには樽や袋に詰められた輸入物資、槍や鉄砲などの武器など（いずれも復元模型）が展示されており、ロシアとは違った異国情緒を感じさせる。当時の三本マストのイギリス商船の模型も展示されている。素人目には清教徒をアメリカ新大陸に運んだメイフラワー号によく似ている。ともあれイギリス商人は、こういった帆船で故国イギリスを出帆し、一路北へ白海に至りアルハンゲリスクあたりで上陸したあと内陸部をモスクワまでやってきたとのことである。西に東にとその活動範囲を拡大したイギリス人のパイ

タリティーには圧倒される。博物館の2階には大きなペチカを備えた食堂兼会議室がある。ここでシェークスピアの時代の古書や地図、イギリス人の生活用品など（一部コピー）を見ることができる。ここも前回のロマノフ一族の館と同様に小さな建物なので、小一時間もあれば十分見て回ることができる。

場所は、

Ул. Варварка, 4а (<https://goo.gl/maps/sQ4Yj9FFXwB2>)  
月曜休館。入場料は大人200ルーブリ。



(札幌大学地域共創学群教授)